

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、主体的に学び、広い視野と深い知識を身に付け、思いやりの心と郷土愛により社会に貢献し、規範意識をもち、心身ともに健康で、たくましく生き抜く、次代を担う生徒の育成を目指す。

教育指針 「学ぶ 鍛える 思いやる」

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	生徒の学ぶ意欲の伸長、学力の向上、社会性の育成を図ることができる学校 地域・保護者に信頼され、力を合わせて生徒を育成する学校 組織で課題解決にあたる学校
○児童・生徒像	向上心をもって粘り強く努力し続ける生徒 他を思いやる豊かな心をもつ生徒 「あじみこし」が身に付いた社会性のある生徒
○教師像	生徒の個性を理解し、よさを伸ばそうと創意・工夫する教師 謙虚に自己研鑽に励み、指導力を発揮する教師 組織の一員として教育活動に取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

- (1) 「地域立中学校」として定着している。
- (2) 自校作成の家庭学習ノートを活用して家庭学習に取り組む習慣を身に付けることができた。
全校で放課後補充教室に取り組み、AIドリルも活用し、基礎学力の定着に努めている。
- (3) 学校行事や生徒会活動・委員会活動等には積極的に取り組み、達成感も高い。
- (4) 地域行事をとおして、地域の町会や自治会・小学校・高校との連携が定着している。

2 前年度の成果

- (1) 江南中学校の生徒が地域の将来を真剣に考え、その考えを的確に表現し、実現に向けて直ぐにでも動き出しそうな決意を創立 70 周年記念式典において多くの関係者の皆さんに見ていただけたことが令和 5 年度の一番の成果となった。
- (2) 時程の変更により朝読書の時間が確保され、落ち着いた学校生活の始まりを確保できた。
- (3) 全校体制での放課後補充教室の実施により、基礎学力の定着につながった。AI ドリルや令和 5 年度版に改定した Qubena シートも活用した。
- (4) 小中連携を概ね元の形まで戻すことができた。
- (5) 消火隊活動の宮城小学校でのお披露目、2 町会・2 自治会のお祭りやチャイルドタウンフェスティバル、子どものハッピーイベント等、再開した地域行事にボランティア生徒を募り概ね関わる事ができた。土曜授業度の地域清掃も継続した。

3 前年度の課題

- (1) スマートフォンの 1 日の使用時間は 5 時間を超える生徒が多く、自らの行動を制御できる考え方や手段を学活等で提示しつつ、学びの楽しさを伝えられる授業改善を目指す。
- (2) 家庭学習ノートについては、発展的なものの見方や考え方ができる基礎となる、記憶しなければならない知識を覚えるためのノートとして活用していく。放課後補充教室については、学び合いの時間を増やし、人に教えることで更なる学力の定着を強固なものとする。学び合いのルールについても校内で統一し、全学年のものとする。

- (3) 苦手なものを避けることで大きな成長の機会を逃してしまってる生徒も少なくない。苦手でも目標のためにやりきる学習が楽しく、充実感や達成感を得られることを体験させる。ストレスからの退避やメンタルトレーニングの方法について、スクールカウンセラーや養護教諭とともに指導していく。
- (4) 「あじみこし」を生活指導の基本に据え、礼節をわきまえた礼儀作法等をさらに指導するとともに、競争心や向上心の高揚を図る。
- (5) 地域や家庭、関係教育機関との円滑な連携により、健全育成をさらに推進する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践	◎	◎	◎	◎	◎
3	生徒による主体的な活動の推進・キャリア教育の促進	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
全教科において足立スタンダードに基づいた活用型授業を展開することで、主体的に学び、深く考え、表現することができる。	R6区学力調査達成率 65% 到達度確認テスト(1月) 正答率 65%	R6区学力調査達成率 71.1% 到達度確認テスト(1月27日) 正答率 %	授業での足立スタンダードや全員参加型の放課後補充教室が定着しつつある。R5区学力調査達成率 70.3%より今年度は0.8ポイント概ね区平均を上回ることができたが、国語の「読むこと」や英語の2学年の通過率が下がったこと等が課題として残る。更なる授業改善や放課後補充教室と家庭学習ノートの連携を意識し、基礎学力の定着を徹底する。	○

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
-----	----------	--------------	-------------	-----------------------------	------------	-------------------------------	------	---------	-------------

継続	授業改善	全教科	年間	①管理職による授業観察 ②小中連携による教科ごとの研究授業 1回 ③江北ブロック合同研修会 1回 ④区中研教科部会への参加 ⑤学力定着推進員と管理職による授業観察 国語、数学、英語科教員 ・教科指導専門員による指導	①自己申告面談にて授業の講評を行う ②教科ごとに成果発表 ③自教科の授業を参観し、協議会に参加する ④教科部会で得た情報を基に授業の改善を行う ⑤授業観察後の協議会 専門員との振り返り	①全教員年2回 ②全教員年1回 ③全教員参加 ④全教科部会参加 ⑤対象教員年1回 教科ごとに決められた回数	・①～⑤について概ね実施した。 ・②小中連携で主体的な学びを教師が導けるように、「ファシリテーター」を題材に講師を招聘し、年度初めに研修会を実施した。 ・大仙派遣者の授業見学に4名が参加した。	・生徒の授業に向かう姿勢が良好である事と、教師の授業にかける熱意が相乗効果となり日々の授業が展開されている。その成果が結果に結びついた。 ・教科指導専門員と育成方向の確認をする。 ・大仙の指導法を直ぐに活かそうとする動きがあった。	○
継続	朝読書	全生徒 国語	毎日 朝 10 分	国語科及び担任 ・毎朝 10 分間読書に取り組ませる。 ・語彙を増やすための読書記録	読書冊数	1 人 10 冊以上 語彙力を高める	4～6/14 年度末 R5 5.85 15.42 R6 2.25	・10 分間の朝読書が習慣化されてきた。語彙力を高めるための簡単な記録を続けている。 ・特定の教科や学年による読書冊数の偏りがある。	○
継続	放課後 補充教室	全生徒 英・数中心 に 5 教科	毎日 放課後 25 分	全教員 ・AI ドリルを活用 →Qubena カードによる振り返りの確認	到達度確認 テスト(1 月)	正答率 65%	到達度テストを 1 月 27 日に実施予定 正答率 %	・令和 5 年度より放課後補習教室の時間 25 分は全校生徒を対象とし、全教員がついて実施する形にした。教室ごとに分けて内容を変えて少人数で行った。学び合いの形も充実させた。	○

継続	スモール ステップ テスト	全生徒	年間 単元終了 時	5教科担当 家庭学習とも関連付け 復習プリント等を与えテ ストに取り組ませる。	スモールステ ップテスト	単元終了時に 5 教科で実施	5教科以外でも実施 している教科もあ る。	・基礎学力の定着や 定期テストに向けて の学習の指針になっ た。	○
継続	コンテスト	全生徒	年 3 回	全教員 ・国語 7 月 英語 12 月 数学 2 月	プレテストを 実施してから コンテスト	合格点 80 点とし 合格率 80%以上	合格率 % 国語 81.3% 英語 67.9% 数学 %	・コンテストに向け たプレテストの実施 や練習用プリントの 廊下設置、不合格者 の補充や再テスト、 合格者更に満点の表 彰を行い、学習に対 する充実感を継続し て味あわせる。	△
継続	家庭学習	全生徒	毎日 強化週間 定期考査 前 4 回	家庭学習ノートを自校作成 担任が毎日点検 1, 2 年 2 ページ 3 年 4 ページ	提出状況 ノートの内容	提出状況 100%	強化週間の 3 回まで の提出率 93.5% (時間通りに提出) 第 4 回は 2 月予定	・年度初めに、家庭 学習ノートの使い方 や意義を説明し、取 り組みを開始した。 よいノートの活用法 の紹介を学年だより や廊下掲示で行って いる。	○
継続・ 新規	I C T の 活用	全教員 全生徒	年間随時	大型モニター・タブレット 現物投影機等を活用した授 業を実施する。 AI ドリルの活用 ・数学を中心	全教科 随時活用	I C T 使用率 100%	授業時の ICT 使用率 はほぼ 100%	・ICT とそれ以外の有 効な組み合わせを考 える。	○

重点的な取組事項－２		小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携事業とともに、地域行事に積極的に参加し、郷土愛の心を育成する。		小中連携事業をととして、円滑な接続を図る。 地域行事への参加率を高める。	・「自ら考え、自ら取り組む課題解決学習～個別最適化に向けて～」を主題に研修した。 ・全部の地域行事に生徒ボランティアを募り、概ね参加できた。 ・開かれた学校づくりと協賛し、地域の祭りで休憩場所として校庭を開放した。	・小中のつながりやすい環境を生かし交流を深めることができた。 ・地域行事に参加する生徒ボランティアとPTAの活動を関連付ける。 ・祭りの休憩所として校庭を開放し、多くの地域の方々と生徒の交流の場を設けることができた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域への貢献	「地域の行事に参加している」70%	・ボランティア活動等への参加（消火隊、地域行事、地域清掃、吹奏楽演奏会等） ・生徒会を中心にボランティアを募り、地域清掃を行う。	・消火隊活動の宮城小学校でのお披露目、2町会・2自治会のお祭りやチャイルドタウンフェスティバル、子どものハッピーイベントにボランティア生徒を派遣した。 ・ボランティア生徒を募り、生徒会役員を中心に地域清掃を実施した。 ・地域の行事に参加している：56.5%と昨年度より11.3ポイント減少した。	・お祭りの開催時期が続くことで、ボランティアが集まらないイベントもあった。 ・昨年度は月一回の土曜授業のたびに地域清掃を行ってきたが、今年度より土曜授業を大幅に減らし、清掃を平日開催にし、回数を減らしたため、ポイントが下がった。	○

交流活動の充実	児童・生徒交流5回以上 新入生2学級確保	・部活動体験(小6) ・運動会への小学生参加(小6) ・合唱コン練習小学生見学会(小6) ・合同百人一首大会(小5・中1) ・サマースクール アシスタントティーチャー ・中3アシスタントティーチャー(2月)	・部活動の第一希望を優先し、開催時期を夏休み中の2日間にし、時間も長くした形で実施した。 ・運動会では、部活動対抗リレーの中に小学生2チームの参加があった ・計画した交流は概ね実施した。	・小学校教員の引率をお願いする形となったが、児童は第一希望の部活動に例年より時間も長く参加することができた。熱中症防止対策のため、校庭の部活動も体育館で体験を行った。	○
授業以外の学力向上 対策	漢検の合同実施 百人一首合同練習会実施	・漢字検定への小学生参加 ・百人一首合同練習会	・漢字検定を小学生が江南中学校で受験した。 ・2月5日に百人一首合同練習会を開催予定。	・中1ギャップが少しでもなくなるように小学校教員と連携する。	○

重点的な取組事項－3 生徒による主体的な活動の推進・キャリア教育の促進					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒が自分たちで学校を良くしようとする意識(愛校心)と自己肯定感をはぐくむ。キャリア教育に関わる取組をとおして、将来や今の自己の生き方について考え・表現できる生徒を育成する。		「学校に行くのが楽しい」80% 「大人になったときの夢や目標がある」70%	「学校に行くのが楽しい」72.1% 「大人になったときの夢や目標がある」69.5%	・「学校に行くのが楽しい」は-2.3ポイントとなり目標値に達することができなかった。 ・「大人になったときの夢や目標がある」+15.5%となった。職場体験の充実などを含むコロナ前の本校のキャリア教育に戻せた成果と思われる。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

自尊感情を育む実践	・「自分にはよいところがある」 65% ・「あじみこしを意識して生活している」 80% ・各種表彰並びに掲示	・生徒会が主催の「あじみこし」キャンペーンの実施 ・大会等上位入賞者の表彰や掲示	・「自分にはよいところがある」 68.8% ・「あじみこしを意識して生活している」 68.2% ・ほぼ毎回の朝礼時に何らかの表彰を行い、学校だよりや学年だよりにも取り上げた。	・生徒主体の行事運営や朝礼での表彰など、自己肯定感を高める機会を意識し設けた結果、目標値を超えた。継続する。 ・「自分にはよいところがある」は+2.4ポイントとなった。 ・生活の目標「あじみこし」は-8.1ポイントとなったが、学校生活は非常に落ち着いている。当たり前になっている。	△
意志決定能力・キャリアプラン能力の伸長	・職場訪問 1 年、職場体験 2 年の実施 ・夢デザインシートの活用 ・「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい」 80%	・職場訪問 1 年 ・職場体験 2 年 2 日間 ・夢デザインシート記入 ・外部人材の活用 ・上級生から下級生へ ・中学生から小学生へ	・2 日間の 2 年の職場体験は 1 人 1 事業所とし実施した。生徒の主体性に変化が見られた。1 年生の職業講話も外部人材より多種多様な話を聞くことができた。 ・「自分の好きな仕事に就けるよう、勉強したい」 81.2% ・上級生から下級生にキャリア教育の事後学習の発表を通して、取り組みを継承した。また、小学生に向けて中学校行事への招待や部活動体験を通し、少し先の自分をイメージしてもらえた。	・体験先の確保や講師の手配に苦労はしたが、それ以上に生徒の満足度は事後の表情からも察することができた。 ・「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい」 +2.9 ポイントとなった。キャリア教育の充実の成果。 ・与える喜びを実感させることができ、下級生については目上の者を尊敬する意識を培わせた。	○

コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の伸長	・「グループ活動やペア活動で話し合ったり、発表したりすることは好きだ」70%	・全教科で言語活動を取り入れた工夫した授業の実施 ・プレゼンテーションソフトを活用した発表の充実 ・生徒会朝礼の充実	・「グループ活動やペア活動で、話し合ったり、発表したりすることは好きだ」70.1%	・授業で話し合いや発表の機会を多く取り入れた。また、総合的な学習では学んだ事柄を学年全体の場合や学習発表会で、ICTを活用しプレゼンテーションを行ったが、発表の時期が集中しないような配慮が必要となる。	○
生徒会、委員会活動の活性化	・「行事・部活動に積極的に取り組んだ」85%	・生徒実行委員会を中心とした行事の運営や生徒会、委員会の主体的な活動の推進	・「行事・部活動に積極的に取り組んだ」81.8%	・目標値には達しなかったが、3年生を中心とした言葉遣いが丁寧な行事の実行委員が、リーダーシップを発揮した。	○

6 まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

学力向上においては、授業改善はもとより、朝読書の時間が定着し、落ち着いた学校生活が始まり、全校体制での放課後補充教室の実施により家庭学習ノートの継続も相まって基礎学力の定着につながったと考えられる。アナログとICTのよいところを融合し、「学びの楽しさ」を伝えられる授業改善を目指す。家庭学習ノートについては、授業との関連づけを意識し、基礎学力の定着と筆記による出力の確認として活用していく。放課後補充教室については、リトルティーチャー制を更に発展させ、学び合いの時間を増やし、人に教えることで自己有用感や学力の定着を強固なものとする。学び合いのルールについても校内で統一し、全学年のものとする。

キャリア教育の目的意識を明確にし、生徒一人ひとりの夢や理想をはっきりさせる手助けを行い、夢や理想につながる目標をもって学習に取り組ませる。苦手でも目標のためにやりきる楽しさや充実感や達成感を得られることを体験させる。ストレスからの退避やメンタルトレーニングの方法について、スクールカウンセラーや養護教諭とともに指導していく。

（２）保護者や地域へのメッセージ

日頃より本校の教育活動にご理解ご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

宮城・小台地域は、小さな乳幼児からご年輩の皆様まで、ひとつの絆でつながっている素晴らしいところです。その貴重な財産である中学生の健全育成と学力向上のために、教職員の総力をあげて尽力してまいりますので、今後ともなお一層のご理解ご支援ご協力をお願いいたします。

（３）その他（学校教育活動全般について）

1年2学級・2年2学級・3年2学級の全校6学級で編成の継続。

次年度以降も、小規模校ならではの特長を最大限生かし、複数担任制・指導方法の工夫等、生徒一人一人にきめ細やかな指導並びに支援ができるよう教育活動にあたってまいりますので、ご理解ご支援ご協力をお願いいたします。